

「主な取組」検証票

施策展開	4-(1)-ア	国際ネットワークの形成と多様な交流の推進		
施策	① ウチナーネットワークの継承・拡大			
主な取組	次世代ウチナーネットワーク育成事業	実施計画 記載頁	322	
対応する 主な課題	現在39万人を越える海外在住の県系人が国際交流・協力の架け橋として大きな役割をはたしているが、世代交代が進むなかで、ウチナンチュとしての意識、アイデンティティーの低下が懸念されており、世界のウチナンチュのネットワーク継承や次世代の担い手の育成に取り組む必要がある。			

1 取組の概要(Plan)

取組内容	海外県系人子弟と沖縄県の青少年が互いに交流、研鑽する場を設けることにより、世界のウチナーネットワークを担う次世代を育成する。						
年度別計画	24	25	26	27	28	29～	実施主体 → 県
	30人 交流人数				60人 (ウチナンチュ 大会時)		
	県内に海外県系人子弟を招聘し、県内生徒との交流事業を実施						
	9人 受入人数	9人	9人	9人	9人		
	海外県系人子弟等を県内大学等に留学させ、県民との交流や生活を通じた文化・歴史等の学習により、沖縄を知ってもらう。						
	6人 派遣人数	6人	7人	7人	8人		
県内学生を海外県人会宅に派遣しホームステイによる交流事業を実施							
担当部課	知事公室交流推進課						

2 取組の状況(Do)

(1) 取組の推進状況

(単位:千円)

平成24年度実績				
事業区分	予算	決算見込	活動内容	備考
ウチナー ジュニアスタ ディー事業	11,537	10,617	下記のとおり、30名が参加した。 日程:平成24年7月24日～7月30日 県内中高生 13名 兵庫県からの高校生 1名 海外県系人子弟 14名 県内・海外青年リーダー各1名【県単等】	再掲 5-(4)-ア 367頁
ウチナン チュ子弟留 学生受入事 業	20,995	20,216	下記の通り、9名を受け入れた。 日程:平成24年4月～平成25年3月 (イギリス 1名、アメリカ 1名、ブラジル 2名、ペルー 1 名、アルゼンチン 2名、ボリビア 2名)【県単等】	—
次世代ウチ ナーネットワ ーク育成事業(細 事業:海邦養秀 ネットワーク構 築事業)	2,765	2,743	下記のとおり、沖縄の15～25歳の学生を派遣した。 日程:平成24年7月23日～8月3日 派遣先:ブラジル沖縄県人会 人数:6名【県単等】	再掲 5-(4)-ア 367頁

様式1(主な取組)

活動指標名	計画値	実績値
【ウチナージュニアスター事業】交流人数	30人	30人
【ウチナンチュ子弟留学生受入事業】受入人数	9人	9人
【海邦養秀ネットワーク構築事業】	6人	6人
推進状況	取組の効果	
<input checked="" type="checkbox"/> 順調 <input type="checkbox"/> やや遅れ <input type="checkbox"/> 大幅遅れ <input type="checkbox"/> 未着手	エイサーや伝統工芸等の文化体験、移民・歴史学習等の共同での取組、また県系人職場見学などを通じ、ウチナーアイデンティティを強め、次世代ウチナーネットワークの担い手となる機会を提供した。 また、県内青少年を海外県人会へ派遣し、移民県沖縄の歴史や世界で活躍するウチナンチュの活躍を見聞する場を提供することにより、次世代ウチナーネットワークの主要メンバーを育成する基礎を築くことができた。さらに、県出身移住者子弟を県内の大学で修学させ、日本・沖縄の文化を理解し県民との交流を深めてもらうことにより、本県と移住先国との友好親善の推進に寄与する人材の育成に資することが出来た。	

(2) 今年度の活動計画

(単位:千円)

平成25年度計画			
事業区分	当初予算	活動内容	備考
ウチナージュニアスター事業	12,446	34名が参加予定。 日程:平成25年8月4日～8月10日 県内中高生:15名 海外県系人子弟:15名 大阪府からの高校生:2名	再掲 5-(4)-ア 367頁
ウチナンチュ子弟留学生受入事業	22,616	海外県系人子弟を県内大学や企業等で留学・研修させ、本県の文化、習慣、歴史等の理解促進と県民との交流を行う【県単等】	—
次世代ウチナーネットワーク育成事業(細事業:海邦養秀ネットワーク構築事業)	4,480	沖縄の15～25歳の学生を派遣予定。 日程:平成25年8月14日～8月28日 派遣先:ペルー沖縄県人会 人数:8名【県単等】	再掲 5-(4)-ア 367頁

(3) これまでの改善案の反映状況

<p>平成25年度の事業実施にあたり、卒業生を積極的に事業プログラムの企画や運営に参加させ、縦の繋がりを強化することでネットワークの継続を図る。</p>
--

(4) 成果指標の達成状況

成果指標	基準値	現状値	H28目標値	改善幅	全国の現状
次世代ウチナーネットワーク参加青少年数(累計)	1,176人 (23年)	1,221人 (24年)	1,441人	45人	—
次世代ウチナーネットワーク参加者とのネットワークの継続	14.8% (23年)	18.9% (24年)	35%	4%	—
参考データ	沖縄県の現状			傾向	全国の現状
—	—	—	—	—	—

様式1(主な取組)

状況説明	ウチナージュニアスタディー事業、ウチナーンチュ子弟留学生受入事業、海邦養秀ネットワーク構築事業の3つの事業への参加を通して毎年県とネットワークがある者の割合は増えている。
------	---

3 取組の検証(Check)

(1) 推進上の留意点(内部要因、外部環境など)

事業への参加者数が順調に推移しているため次世代の担い手の育成は図られているが、事業終了後も参加者とのネットワークを継続していく仕組み作りが必要。

(2) 改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)

3つの細事業間の情報共有を十分に図ることで、事業間連携を強化し、事業終了後も参加者とのネットワークを継続する仕組みを作る。

4 取組の改善案(Action)

事業終了後、定期的に卒業生の同窓会の開催や3事業の各卒業生の相互交流を推進することで、ネットワークの継続を図っていきたい。

「主な取組」検証票

施策展開	4-(1)-ア	国際ネットワークの形成と多様な交流の推進
施策	① ウチナーネットワークの継承・拡大	
主な取組	国内外の県人会との連携	実施計画 記載頁 322
対応する 主な課題	現在39万人を越える海外在住の県系人が国際交流・協力の架け橋として大きな役割をはたしているが、世代交代が進むなかで、ウチナーンチュとしての意識、アイデンティティの低下が懸念されており、世界のウチナーンチュのネットワーク継承や次世代の担い手の育成に取り組む必要がある。	

1 取組の概要(Plan)

取組内容	海外：県人会式典等の参加、知事祝辞送付、後援、関係機関の紹介などを行う。 国内：国内県人会の後援依頼等の対応の他、県人会活動拠点活性化事業により大阪沖縄県人会館の改修支援を行う。						
年度別計画	24	25	26	27	28	29～	実施主体
	県人会式典等への参加や県人会との情報交換を通じたネットワークの形成					→	県
担当部課	知事公室 交流推進課						

2 取組の状況(Do)

(1) 取組の推進状況

(単位:千円)

平成24年度実績				
事業区分	予算	決算見込	活動内容	備考
海外移住記念事業費	1,895	1,818	平成24年度は下記のとおり県人会主催の式典に出席し、沖縄と現地の絆を深めた。 開催行事：フィリピン沖縄県人会創立30周年記念式典 日程：平成24年10月28日 場所：フィリピン共和国 主催：フィリピン沖縄県人会 県の出席者：上原副知事【県単等】	—
県人会活動拠点活性化支援事業	—	—	国内県系人ネットワークの推進を図るため、次年度に向けて活動拠点の改修支援を行う事業の予算化をした。国内県人会の後援依頼等の対応をした。	—
活動指標名			計画値	実績値
県人会の功労者、高齢者(感謝状対象者)			-	30名
推進状況	取組の効果			
<input checked="" type="checkbox"/> 順調 <input type="checkbox"/> やや遅れ <input type="checkbox"/> 大幅遅れ <input type="checkbox"/> 未着手	県から沖縄とフィリピンの関係に尽力された功労者や高齢者に感謝状を贈呈した。これにより、1世や2世の先人達の長年の労苦をねぎらうとともに、3世の若い世代は自らのウチナーンチュとしてのアイデンティティを強く意識することになり、県人会活動活性化を促進した。			

様式1(主な取組)

<input checked="" type="checkbox"/> 順調 <input type="checkbox"/> やや遅れ <input type="checkbox"/> 大幅遅れ <input type="checkbox"/> 未着手	各国内県人会の後援・改修事業を通して活動拠点の確保を行うことにより、在阪沖縄県人会の活動の活性化、県人会ネットワークの継承、県人会の担い手の育成、沖縄の伝統文化の継承が行われることが期待できる。
--	---

(2) 今年度の活動計画

(単位:千円)

平成25年度計画			
事業区分	当初予算	活動内容	備考
海外移住記念事業費	6,209	在ヨーロッパの県人会へ、欧州キャラバン団を三役を団長に結成し、訪問する。 県人会役員との意見交換会を開催及び現地視察等を行い、ヨーロッパと沖縄のウチナーネットワークの強化を図る。【県単等】	—
県人会活動拠点活性化支援事業	20,321	大阪沖縄県人会館の改修事業への補助金交付要綱を制定し、交付決定をする。(改修工事着工は7月、工期は7月～9月の3ヶ月を予定している。)(県単等)	—

(3) これまでの改善案の反映状況

海外:計画通り進捗しており、前年度同様、事業進捗を図る。

(4) 成果指標の達成状況

成果指標	基準値	現状値	H28目標値	改善幅	全国の現状
—	—	—	—	—	—
参考データ	沖縄県の現状			傾向	全国の現状
—	—	—	—	—	—

状況説明	海外:県から上原副知事が出席してお祝いの言葉を述べ、功労者や高齢者に感謝状を贈呈した。これにより、1世や2世の先人達の長年の労苦をねぎらうとともに、3世の若い世代は自らのウチナーンチュとしてのアイデンティティを強く意識することになり、県人会活動活性化を促進した。 国内:国内県人会の後援等を行うことで、各県人会が県との絆を強化し、ウチナーンチュとしてのアイデンティティを強く意識することにより、県人会活動活性化を促進した。
------	--

3 取組の検証(Check)

(1) 推進上の留意点(内部要因、外部環境など)

海外:これまで当事業では、海外県人会主催の式典に三役を派遣し、県系人を激励し関係強化を図ってきたところ、下記の傾向が見られた。

①訪問先が南米や北米・ハワイなど移民の多い地域に偏りがち
 ②式典以外に、もっと実務レベルでの交流が必要

国内:原則、県人会からの支援要請に係る支援については、原則として実施していない。ただし、例外的に支援措置が必要な場合については条件を満たすことが必要となる。大阪沖縄県人会は法人格を持ち、かつ1千人以上の会員を有する広域的な活動を行う県人会である事、過去に支援を受けたことがない事、県人会名で登記されている既存の建物を支援の対象としている等、条件を満たしている。なお、今回改修事業にあたり策定した交付要綱は今年限度限り有効なものとする。

様式1(主な取組)

(2) 改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)

海外:海外県人会の周年記念式典は、海外で暮らすウチナーンチュにとって母県・沖縄との絆を深める重要な行事であり、県としてもその都度しかるべき対応をする必要がある。その一方で、式典が開催されない時期を見計らって、訪問の機会が少ない国々のウチナーンチュと交流を図り、ウチナーネットワークの全世界的な普及に努める。

国内:今回改修事業にあたり策定した交付要綱は今年度限り有効とし、今後支援が必要とみなされる県人会がある場合は、社会情勢等を踏まえ対処する必要がある。

4 取組の改善案(Action)

海外:平成25年度にヨーロッパキャラバンを実施する予定である。

国内:今後支援が必要とみなされる県人会がある場合は、支援要請時の社会情勢等を踏まえ、県人会の活性化につながるよう方策を検討する。

「主な取組」検証票

施策展開	4-(1)-ア	国際ネットワークの形成と多様な交流の推進		
施策	① ウチナーネットワークの継承・拡大			
主な取組	新ウチナー民間大使の認証	実施計画 記載頁	322	
対応する 主な課題	歴史的・地理的特性により培われた沖縄の発展可能性は、諸外国・地域との交流と連携を深めながらともに発展していくという取組の中で特に発揮されるものであり、観光・学術・文化・経済など様々な分野における国際交流を強化し、交流の架け橋となる人材の育成や人的ネットワークの構築等により交流基盤としてのウチナーネットワークを強化・拡充することが必要不可欠である。			

1 取組の概要(Plan)

取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ・沖縄の文化、芸能、自然等、沖縄のPR活動を行う者に、本県と海外との交流の架け橋役として「新ウチナー民間大使」に認証する。 ・新ウチナー民間大使が行う沖縄のPR等の活動に対し、助成金を交付する。 						
年度別計画	24	25	26	27	28	29～	実施主体
	227人 民間大使数				240人(累計)	→	県
担当部課	知事公室交流推進課						

2 取組の状況(Do)

(1) 取組の推進状況

(単位:千円)

平成24年度実績				
事業区分	予算	決算見込	活動内容	備考
国際ネットワーク事業	1,350	435	・新ウチナー民間大使がそれぞれの国で行う沖縄の美術作品を紹介する美術展や、東南アジアのウチナーンチュのネットワーク構築を推進する事業に対し、助成を実施した。 ・大使の新規認証を行った(1名)【県単等】	—
活動指標名			計画値	実績値
民間大使数			227人	228人
—			—	—
推進状況	取組の効果			
<input checked="" type="checkbox"/> 順調 <input type="checkbox"/> やや遅れ <input type="checkbox"/> 大幅遅れ <input type="checkbox"/> 未着手	・平成25年度における世界5カ国での助成事業の実施が決定。北中南米、アジア、ヨーロッパで広く大使の活動を助成することとなった。			

(2) 今年度の活動計画

(単位:千円)

平成25年度計画			
事業区分	当初予算	活動内容	備考

様式1(主な取組)

国際ネットワーク事業	1,350	・新ウチナー民間大使の認証委員会の開催 ・平成26年度の新ウチナー民間大使の助成事業実施募集に向けた積極的な広報【県単等】	—
------------	-------	--	---

(3) これまでの改善案の反映状況

<p>・計画通り進捗しており、前年度同様、事業推進を図る。</p>

(4) 成果指標の達成状況

成果指標	基準値	現状値	H28目標値	改善幅	全国の現状
—	—	—	—	—	—
—	—	—	—	—	—

状況説明	<p>・平成25年度はすでに1名の大使を追加認証済み(計228名)であり、今後も随時認証を行っていく予定。世界のウチナーンチュ大会開催時に広く各国県人会に推薦の要望を行う予定であり、28年度の目標達成は十分に可能であると考えられる。</p>
------	--

3 取組の検証(Check)

(1) 推進上の留意点(内部要因、外部環境など)

<p>・新ウチナー民間大使活動助成金交付事業について、各国の県人会および大使宛直接交付金の助成について案内を委託先(沖縄県国際交流人材育成財団)より投げているが、申請を行う積極的な少数の大使と、そうでない大多数の大使に二分化している。 ・募集のあった助成事業で、予算を消化出来ず辞退や減額があった。 ・多くが県系移民の1世によって構成される同大使は高齢化が進んでおり、連絡をなかなか取る事の出来ない方も居る。23年度に連絡先の確認を全大使に行ったが、227人中、59人の回答しか得られなかった。</p>

(2) 改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)

<p>・第6回世界のウチナーンチュ大会に向けて、各国県人会等との連絡を密にしながら大使の動向を把握するとともに、積極的な活動を行っている県系人のみならず沖縄にゆかりのある人々について、積極的に情報を収集し、こちらより大使認証を打診するような活動を検討していく必要がある。 ・推薦を行う主体が海外県人会、コンベンションビューロー、海外事務所等に限定されているので、広く大使にふさわしい人物を推薦できるようなスキームを構築する。</p>
--

4 取組の改善案(Action)

<p>・海外で活躍する民間大使に対し、現地での面談などを含めた活動状況に関する積極的な情報収集を行う。 ・助成事業選定の機会を年度内に複数設け、民間大使の活動をより積極的にサポートする。 ・推薦団体を拡大する等、大使にふさわしい人物をより広く推薦できるようなスキームを構築する。</p>

「主な取組」検証票

施策展開	4-(1)-ア	国際ネットワークの形成と多様な交流の促進		
施策	①ウチナーネットワークの継承・拡大			
主な取組	世界若者ウチナーンチュ連合会との連携	実施計画 記載頁	322	
対応する 主な課題	現在39万人を越える海外在住の県系人が国際交流・協力の架け橋として大きな役割をはたしているが、世代交代が進むなかで、ウチナーンチュとしての意識、アイデンティティーの低下が懸念されており、世界のウチナーンチュのネットワーク継承や次世代の担い手の育成に取り組む必要がある。			

1 取組の概要(Plan)

取組内容	世界若者ウチナーンチュ連合会主催で、毎年世界各地で持ちまわり開催される「世界若者ウチナーンチュ大会」と連携し、次世代のウチナーネットワークの発展を図る。						
年度別計画	24	25	26	27	28	29～	実施主体
	「若者ウチナーンチュ大会」の開催(H24～H27年度) (主催:世界若者ウチナーンチュ連合会)						世界若者ウチナーンチュ連合会 県
	「若者ウチナーンチュ大会」の実施のために設立された世界若者ウチナーンチュ連合会への連携						
担当部課	知事公室交流推進課						

2 取組の状況(Do)

(1) 取組の推進状況

(単位:千円)

平成24年度実績				
事業区分	予算	決算見込	活動内容	備考
—	—	—	下記のとおり、第1回大会を行った。 主催:世界若者ウチナーンチュ連合会 共催:ブラジル沖縄県人会 日程 平成24年7月25日～29日 場所 ブラジル・サンパウロ 参加国 ブラジル・アルゼンチン・ペルー・ボリビア・アメリカ・香港・日本・沖縄 参加者 156名	—
活動指標名			計画値	実績値
世界若者大会参加者			—	156人(H24年)
推進状況	取組の効果			
<input checked="" type="checkbox"/> 順調 <input type="checkbox"/> やや遅れ <input type="checkbox"/> 大幅遅れ <input type="checkbox"/> 未着手	7カ国から156名が参加した第1回大会では、次世代のウチナーネットワークを発展させるために、若者自らが各自の立場で何ができるか、また、連携して何をを目指すかという議論が行われた。そこで話し合われた内容を「サンパウロ州宣言」としてまとめ、県費留学生の支援や沖縄の文化・伝統の継承といったテーマを設定し、大会終了後は宣言の実現に向けて各国支部で取り組むこととした。			

(2) 今年度の活動計画

(単位:千円)

平成25年度計画			
事業区分	当初予算	活動内容	備考

様式1(主な取組)

—	—	<p>下記のとおり第2回大会を行う予定である。 主催:世界若者ウチナーンチュ連合会 日程 平成25年7月18日~21日 場所 アメリカ合衆国・ロスアンゼルス 参加国 ブラジル・アルゼンチン・ペルー・ボリ ビア・アメリカ・香港・日本・沖縄 参加者 156名 備考:在ロスの北米沖縄県 人会からは、労働力や資金の提供の支援を実施している</p>	—
---	---	--	---

(3) これまでの改善案の反映状況

計画通り進捗しており、県としては前年度と同様に、事業の進捗に向けて側面的な支援を図る。

(4) 成果指標の達成状況

成果指標	基準値	現状値	H28目標値	改善幅	全国の現状
—	—	—	—	—	—
参考データ	沖縄県の現状			傾向	全国の現状
—	—	—	—	—	—

状況説明

ブラジルでの第1回大会は、世界で最大数の県系移民が暮らす南米地域での開催であり、またブラジル沖縄県人会の強力な支援体制もあって、156名が参加し、ウチナーネットワークの絆を深めることができた。今年の第2回ロスアンゼルス大会では、前年の経験を活かし、さらに成熟した議論を行い、交流を深めることが期待できる。また、財政面ではみらいファンド沖縄と連携して寄付金受付制度を立ち上げたり、25年度は県内企業が2社スポンサーにつくなど、体制の整備が進んでいる。

サンパウロ宣言で掲げた目標については、県費留学生の定例会に参加して企画に関わるなど、県とも連携を図りながら取り組んでいるところである。

3 取組の検証(Check)

(1) 推進上の留意点(内部要因、外部環境など)

- 世界若者ウチナーンチュ大会は、沖縄や世界の若い県系人の自主的な運営による大会であるため、県としては彼らの取り組みを応援する一方で、彼らの自主性を尊重する必要がある。
- 第1回大会は、海外県人会の中で最大規模を誇るブラジル沖縄県人会と共催し、ブラジルを中心に156名が参加した。第2回大会では、904世帯を抱えるアメリカ・ロスアンゼルス北米沖縄県人会の支援をうけて開催され、南米と並んで県系移民の多い北米でも、前回と同規模の参加が見込まれている。しかし、第3回、第4回大会はヨーロッパ、アジアといった、南米や北米に比べて県系人口が少ない場所での開催を予定している。これは、参加人数だけでなく、世界の各地で持ち回り開催することを重要視しているためであり、県としても今後は参加者数以外の点から評価する必要がある。

(2) 改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)

連合会のメンバー構成は、数名の社会人と、多くの現役大学生によって成り立っており、現在活動しているメンバーが就職したり、仕事が忙しくなって活動に関わりにくくなる状況が懸念される。メンバーが入れ替わっても下の世代に運営を引き継ぎ、活動を維持できる仕組みづくりが必要である。

4 取組の改善案(Action)

県等から一本立ちして大会を開催したいという主催者側の方針を尊重し、現時点では開催地県人会への仲介、運営の助言、大会後援など側面的な支援を今後も継続して行う。大会の評価については、参加者数は大会内容にかかわらず開催地及び地元県人会の規模によって増減するため、そのみを基準に評価するのではなく、開催国の多様性や討議内容、大会開催の継続性などの面などもふまえて評価するよう、心がける。

その他の支援として、県交流事業に参加した高校生や大学生を同連合会に推薦して若い人材の底上げを図る。また、県費留学生の滞在中の支援や移民広報啓発など、既に連携して実施している取り組みについては引き続き継続する。